

ボランティア

女性教育情報センターだより

2022.7.5 発行 国立女性教育会館情報ボランティア No.95

まず“知ってもらおう”ことです！

～萩原なつ子新理事長に聞く～



今年4月、国立女性教育会館(NWEC)は、立教大学名誉教授萩原なつ子^{はぎわら}さんを理事長として迎えた。早速理事長室を訪問したボランティア取材班を、理事長は軽やかな足取りと気さくな笑顔で歓迎してくれた。予定をオーバーする1時間半のインタビューは、笑いと今後への期待感にあふれる楽しいものであった。

今年度は宣伝・広報・営業本部長に徹します

一重点的に取り組みたいと考えていることは何でしょうか？

まずNWECを“知ってもらおう”ことです。今年はNWEC設立から45周年ですが、まだまだ存在を知らない方が少なくありません。来てもらうために、宣伝・広報・営業本部長として自ら動き、関わった人たちに関心を持ってもらえるように努めています。従来のSNSに加え、NWECのHPに「なっちゃんが行く！」の頁を新設し、積極的に発信していきます。

また、NWEC職員個々の才能や特技、発想を活かし、**組織としてエンパワメント**を図りたいと考えています。そのために、職員が思いついたアイデアを、課題を含め、いつでも付箋に



理事長室にはホワイトボード、ポストイット、マーカーなどがたくさん置かれ、アイデア歓迎という理事長の熱意が伝わってくる。取材には情報課の谷口係長・石倉職員(写真左)も同席 [撮影 YH]

書いて貼れるよう、理事長室入口にホワイトボードを置いています。

歴史(女性史)を知ることも大事

一女性教育情報センターはジェンダー問題に関する全国有数の資料を所蔵しています。同センターの活動について考えをお聞かせください。

テーマを決めて展示や情報発信をする場合、タイムリーなものや、先を見据えたものもよいのですが、歴史を知るという観点も大事ではないでしょうか。何かが今こうなっているのはなぜなのか？どうやって権利を勝ち取ってきたのか？女性アーカイブセンターが所蔵する(主婦連合会の)おしゃもじ*も、歴史を紐解けば、今につながっていることがわかります。ただし、歴史といっても一部の男性による“history”ではなく、女性から見た“herstory”です。膨大な所蔵資料は「宝の山」です。どれを発信すればジェンダーへの関心を高め、若者の選択肢を増やせるのか？知識は力になります。効果的に発信していけるとよいと思います。

*編者注：女性デジタルアーカイブシステムで「おしゃもじ」と検索
⇒ 奥むめおコレクションの画像を見ることができます

https://w-archive.nwec.go.jp/il/meta_pub/G0000337warchive

男性育休

～取得が当たり前になるように～

関連資料は以下からご覧いただけます。 <https://www.nwec.jp/event/center/paternityleave.html>

1992年に施行された育児休業法は、95年には育児・介護休業法となり、その後も改正を重ねて今や子育て世代にとって必要不可欠なものとなっている。男性にとっての育休法について考える。

日本の男性育休制度は世界一

ユニセフは、2019年、OECDとEUのいずれかに加盟する41カ国の「家族にやさしい政策」についての順位を発表。日本は父親の育児休業に関する制度において1位になった（ただし、母親のための育休制度は16位）。日本は父親が6カ月以上の有給※育児休業をとれる制度を整備している唯一の国なのだ。

※雇用保険からの給付金として支払われる。（ユニセフニュース 2019.6.13 <https://www.unicef.or.jp/news/2019/0087.html>）

2022年4月、改正によりさらに進化。10月からは“パパ産休”も

主な改正点

- * 非正規労働者の取得条件緩和…雇用期間1年以上という条件廃止
- * 産後パパ育休（出生時育児休業）新設…生後8週間以内に4週間まで
- * 分割して2回取得可能に…母と父で交代しながら組み合わせれば2歳まで続けてとれる



しかし！ 低迷する取得率 ～宝の持ち腐れ？

2020年、男性の育休取得者が前年の7.5%から12.7%に大幅に増えた。しかしまだ1割をやっと超えたただけだし、取得期間も約8割が1か月未満だ。取得しなかった理由の上位3つは、①収入を減らしたくない、②職場の雰囲気、③会社の制度が未整備、だという。厚労省は、くるみん認定（子育てサポート企業認定）、イクメンプロジェクト、さらに今回の改正で取得率の公表を義務づけるなど取得を奨励しているのだが…。（厚労省「育児・介護休業法の改正について」（2022年3月）より <https://www.mhlw.go.jp/content/>）

読んで
みました

- ① 男コピーライター、育休をとる。 魚返洋平 大和書房 2019
- ② 男も育休ってあり？ 羽田共一 雷鳥社 2021
- ③ パパの家庭進出がニッポンを変えるのだ！
—ママの社会進出と家族の幸せのために 前田晃平 光文社 2021



「テーマ展示、男性育休か～」とボランティア。情報課の職員さんがそろえた資料を、来館者に興味を持ってもらえるように工夫して並べ、知恵を絞ってポップをつける。今回の展示で目立ったのは育休をとった男性の体験談が多かったこと。棚一段分ずらりと並ぶ。男性育休なんて無縁のはるか昔に子育てを終えたボランティア一同、カラフルな表紙をつくづく眺め、それぞれ手に取ってみる。

筆者が選んだのは上記の3冊。著者は大企業の社員、小学校の先生、子どもの問題に取り組むNPO法人勤務の人、わりと好条件に恵まれている人達だ（偶然か？）。

①と②は育休体験記である。取得のいきさつ、子育ての苦労と喜び、パートナーとの関係、育休の収支決算（子育て世代にはとても大事だ）、時には電車の中で赤ちゃんが泣きだしたときの周囲の冷たいまなざしに傷ついた経験なども語られ、育児のリアルが伝わってくる。赤ちゃんの世話をする男性が増

えれば、社会全体が子育て中の人に対して優しくなれるにちがいないのに、と思う。また2冊とも法律の文面だけではわからない運用上の“勘所”も満載で、実務的にも役に立ちそうだ。

いいことづくめに思える育休。それなのになぜ取得率が1割台で低迷しているのか？この制度の根底には家族的責任も社会参加も男女が平等に担おうという趣旨があるはずだ。こんな実態で女性の社会進出は果たして伸びるのか？この疑問に真っ向から切り込むのが③である。いくら女性にもっと活躍しろ、とハッパをかけたってそれは無理、やりたくてもできないのだから。企業や社会が変わらなければだめだ。そのためにはまず、男の家庭進出が必要だと本書は指摘する。帳尻合わせの育休取得や、家事を「ちょっと手伝う」のではなく、女性と対等に家事も育児も仕事も担おう、令和の時代を「男性の家庭進出の時代にしよう！」という著者の言葉に深く頷いたのであった。 [YK]

参加報告 With You さいたま 開設20周年記念イベント-これまでも、これからも、あなたとともに-

埼玉県の男女共同参画社会づくりのための総合拠点“With You さいたま”で6月25日に開催された記念イベント^{*1}のひとつとして、WEリーグ（日本初の女子プロサッカーリーグ）チェア岡島喜久子さんによる「WEリーグが目指す女性のエンパワーメントとは - 女子スポーツの価値創造とジェンダー平等 -」と題した講演が、アメリカとオンラインで結んで行われた。

岡島さんは、“日本NPOセンター”と協働しジェンダー課題を集めたこと、ジェンダー平等実現のためには社会を動かす必要があること、そのためには人々の心を動かす必要があることを述べたうえで、スポーツが持つ感動を呼び起こす力が課題解決に寄与する可能性について熱く語った。

WEリーグの優勝トロフィーは、砕いたガラスを再生し誕生した^{*2}が、それは見えない壁を突破する力を象徴している。Women Empowerment リーグの取組みを応援していきたい。 [AF]

*1 <https://www.pref.saitama.lg.jp/withyou/event/0625aniversary.html>

*2 <https://www.youtube.com/watch?v=J1ALDtO1Tsk>



NWEC 散策

どこかの大名庭園？ いえいえNWECの日本庭園です。研修の合間にホッと一息…。シラサギが飛来したことも。 [YK 撮影 AF]

NWEC フォーラム 2022

～今年もオンラインで～

- ・ 期日：2022年12月1日～12月22日
- ・ テーマ：ジェンダー平等を実現しよう
- ・ NWEC 提供プログラム：基調講演、パネルディスカッションなど
- ・ 公募出展プログラム：ワークショップ、動画配信、ポスター展示など
- ・ 出展応募受付期間：7月1日～8月15日

※詳しくは以下をご覧ください：

https://www.nwec.jp/event/training/g_forum2022.html

編集後記

- ・ NWEC ボランティアと外部との「つながり」をもっと創っていきたいです。 [af]
- ・ 今年度はボランティアも変化の時？ 気持ちを新たに。 [oo]
- ・ 取材には参加できませんでしたが、萩原理事長の熱い使命感と親しみやすい人柄が伝わってきました。 [tk]
- ・ “なっちゃん”の気さくな笑顔と理事長室の開かれた雰囲気になwecの新しい風を感じた。 [yh]
- ・ 男性育休、ジェンダー平等へ一歩前進。確かに昔よりよくなった。さらによくして次世代に渡したい。 [yk]